

# 令和3年度学校自己評価システムシート (県立川越特別支援学校)

目指す学校像	豊かな学びで児童生徒の可能性を伸ばし、自立と社会参加に向けた生きる力を育み、共生社会の実現に向けて地域と連携する学校
--------	--

重点目標	1 障害特性を踏まえた指導の充実と豊かな学びの実現 2 開かれた教育課程と共生社会の実現に向けた地域との連携及び情報発信 3 自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実 4 尊敬と対話に基づく安心・安全な学校づくり (災害対応と働き方)
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○発達検査や行動観察等を通して児童生徒の実態を把握して指導を展開している。今後は、本校の良さを引き出した指導実践が求められている。 ○個別の教育支援計画・指導計画の作成方法を全校で確認した。今後は、系統性を踏まえた教育課程の見直し求められる。	・本校の良さを確認し、本校だからできる実践を行う。 ・小・中・高の系統性を踏まえた教育課程を組み立てる。	・アセスメントを活用した実態把握、本校の環境を生かした授業実践の工夫、コロナ感染症を踏まえた取組の工夫を行う。 ・全校を見据えた学校教育目標の策定、マトリックス等を活用した小中高のつながりを踏まえた実践の工夫を行う。	・本校の良さを踏まえ、生かした実践に取組めたか。 ・小中高のつながりを踏まえた教育課程をまとめることができたか。			
2	○新型コロナウイルス感染症の影響でボランティアの育成に取り組めていない現状がある。授業支援や支援籍に係るボランティアの育成方法を工夫する必要がある。 ○創立50周年記念式典を迎えることから、地域等とのつながりや共生社会を踏まえた式典行事を行うことが大切である。	・リモート等の使用や効果的なボランティア育成講座を行う。 ・教員・保護者・児童生徒全員が参加し、共生社会を意識した式典を行う。	・新型コロナウイルス感染症予防を視野に入れた間接的・直接的な育成内容を工夫する。 ・実行委員会、校内委員会、式典、記念誌、受付、アトラクション、移動、予算等に係る専門部を設けて、企画立案を進める。	・ボランティアの希望者を募り、育成への効果的な取組を行うことができたか。 ・全員が協力して取組み、式典を支障なく終えることができたか。			
3	○進路に係る教員向け、保護者向け研修会のいくつかを実施することができなかった。全校の保護者への進路等に係る情報発信が必要である。 ○小中高段階におけるキャリア教育理解の推進を進める必要がある。	・進路に係る保護者を対象とした取組を行う。 ・児童生徒の育成の視点からキャリア教育を考え進める。	・事業所見学、進路学習会等の進路に係る研修会等を行う。 ・キャリア教育に係る情報を教職員に提供し、授業実践で活用する。	・保護者教員に係る進路についての理解が深まったか。 ・キャリア教育の視点を取り入れた授業を構成し、実践することができたか。			
4	○新型コロナウイルス感染症予防に努めながら、三密を避ける工夫をして災害に係る取組を行った。今後も工夫が必要である。 ○働き方に係る具体的な取組例を集め、対応を図った。今後は、分掌、教科会等における仕事の精選や見直し等の改善が求められる。	・新型コロナウイルス感染症の予防対策を進めつつ、災害に応じた対応を行う。 ・分掌、教科会、委員会等にける仕事内容の見直し、精選を実現する。	・時間、場所、人数等の視点を踏まえ、災害等の防止に向けた工夫を行う。 ・企画プロジェクトの取組を中心に、各部署で仕事の削減、移行、設定等の見直しを行う。	・新たな取組を工夫し、実践することができたか。 ・各部署すべてで仕事内容の見直し、削減等ができたか。			

学 校 関 係 者 評 価			
実施日	令和	年	月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等			

